

学生の皆さんへ

日本工業大学  
学長 成田 健一

### 生成 AI の利活用に関する日本工業大学の方針

現在、様々なメディアで ChatGPT など生成 AI が話題となっていることは、皆さんも承知していると思います。本学は、建学の精神・理念「実工学の理念にもとづく工学教育と先進的研究により、新たな価値創造と科学技術の発展に寄与する」の観点から、生成 AI もまた「新たな価値創造による社会の発展」に繋がる可能性を秘めていると考え、生成 AI のリスクへの対策を取りつつ、高い倫理感を持って、教育・研究の両方で生成 AI を利用することを推進します。

来るべき Society 5.0 に向けた重要スキルとなるメタ認知能力を高め、批判的思考能力、問題解決能力を学生の皆さんが身に付けるためのツールとして、生成 AI を適切に使用することも必要と考えます。

既に、便利なツールとして利用している皆さんも多いと思いますが、生成 AI が有する高い利便性とは裏腹に、以下の事例のような多くのリスクならびに懸念点もあることが報告されています。

1. 信頼性、信憑性の低い情報が生成されてしまう
2. 著作権侵害や剽窃にあたる情報が生成されてしまう
3. 偏見や差別的な扱いを含む情報が生成されてしまう
4. 学習データがインターネット上の情報であることから、国籍、地域、言語などバイアスが生じてしまう
5. 質問した内容が AI の学習に使われ、意図せず知らないところで情報生成に使われてしまう\*
6. 個人情報や機密情報の漏洩ならびに不適正な利用が発生してしまう（個人情報などの重要な情報を入力しない）

主体的にレポートの作成や卒業研究・計画に取り組むためには、様々な情報を自身で収集・取捨選択し、情報を精査し、論理的に思考した上で、レポートや論文に仕上げることが重要です。これにより批判的思考能力と問題解決能力が身につくという学修効果が期待されます。しかし、レポートや論文の作成に生成 AI を安易に利用すると、理解が深まらず、学修効果が著しく低下してしまう可能性があります。また、生成 AI によって生成された文章を自身で作成したレポートや卒業論文・計画と偽って提出してしまうと、学修成果に対する適正な評価を得られないこととなります。これは、「僭称コンテンツ問題」として、社会的な問題となっています。

本学では、生成 AI によって生成したレポートや卒業論文・計画などを自身が作成した成果物として提出することを認めないこととします。もし、これに反する行為が判明した場合は、不正行為として厳正に対処します。なお、授業における生成 AI の使用については、授業担当教員の指示に従ってください。

生成 AI の能力と利便性はきわめて高く、イノベーションにより社会に大きな変革をもたらす可能性があります。既に、ビジネスチャンスと捉えて、生成 AI を積極的に導入する企業も出始めています。学生の皆さんは、節度と倫理感を持って、正しく生成 AI を活用する姿勢を磨いてください。

\*Web 版の ChatGPT を使用する場合、オプトアウト申請を行うことにより、入力した情報が学習用データとして使用されなくなります。